

## シントラ市派遣事業

私たち、鈴木りおん(西陵 1 年)、俵坂じん(大村 2 年)、山本はな(日大中学 3 年)、吉永ひより(鎮西 1 年)は大村市主催のシントラ市派遣事業に参加し、大村市の姉妹都市であるシントラ市で 8/1/2019 から 8/14/2019 までホームステイをしました。

### 日本とポルトガルの違い

#### —家—

まず、日本では玄関で靴を脱ぎますがポルトガルでは脱ぎませんでした。私のホストファミリーの家はアパートでした。地域柄、都会なので集合住宅が多かったのだと思います。家の中の大きさは私の家とさほどさはありませんでしたが、浴室が2つあってびっくりしました。ユニットバスでした。壁紙の色がオレンジ色ですごくユニークで可愛かったです。一度、日本食を振る舞ったのでキッチンを使いました。日本のキッチンに比べてすごく不便でした。しかも洗濯機はキッチンにありました。

#### —町—

どの建物もヨーロッパの古風な感じで町全体の統一感があってとても綺麗でした。日本とは全く違いました。街全体がわたしたちにとってすごく新鮮で楽しかったです。映画の中の世界みたいでした。観光地では野良猫を餌付しているところがたくさんありました。シントラ市は日本と違って野良猫に寛大なのでとてもいいと思います。また、シントラ市には綺麗なビーチがたくさんありどこも無料で入れました。



## —食事—

バカラオ、鱈をたくさん食べました。ポルトガルでの食事はどれもすごく味付けが濃かったです。衝撃的だったことは、ポテトチップスが食卓に出てきたことです。ポルトガルではポテトチップスを炭水化物、日本でいうコメのように食事に出すことです。食育でポテトチップスは体にあまり良くなく食べ過ぎは良くないと習ってきた私には、とても信じられませんでした。でも、私はポテトチップスがとても好きなので嬉しかったです。

## —観光地—

主に宮殿と城に行きました。特に、ペーナ宮殿が印象に残っています。ペーナ宮殿は公園の敷地の中にありました。宮殿に行くためにバスで坂道を登りました。宮殿はとても美しく、映画で出てきそうな幻想的な見た目でした。凄く楽しかったです。宮殿を見た後はその敷地内にある建造物を見に行きました。そこに行くまでは歩いたのですが道のりは長く、しかも上り坂だったのでとても疲れました。その建造物は歴史があり、綺麗だったのですが、ヘトヘトであまりよくおぼえていません。その後、歩いてウチまで行きました。が、ゲートが開いていませんでした。なんとその日、ペーナ宮殿の従業員はストライキでほとんどいなかったのです。そのため、入り口まで歩いて行くことになりました。しかも坂道だったので喋る元気もないくらい疲れていたのを覚えています。ある意味、日本ではあまりないストライキをよく知れたいい機会でした。帰った後、iPhone のアプリ、ヘルスケアで歩いた歩数を見てみると 12.6km、上がった階段は 68 階でした。



アクティビティ



## —その他—

夜にみんなでコンサートに行く機会がありました。ポルトガルではコンサートは無料で入れるそうです。そのコンサートには移動遊園が来ていました。歌手と曲がわからない私たち日本人は、主にその移動遊園のアトラクションを楽しみました。名前はわからないのですが、



HARD ROCK CAFÉ のアトラクションで音楽が流れながら、とても早いスピードでぐるぐる回る遊具がありました。とてもとても早かったので、乗っている友人を探そうと思っても不可能でした。そしていざ、自分が乗ると回っている間は自分が今どの辺りにいるのかもわからないくらい早かったです。しかも、シートベルトは緩かったので体、特に首がぐわんぐわん揺れました。

でも楽しかったです。翌日、その遊具に乗ったほぼ全員が首を痛めていました。別の日の休憩時間にポルトガルの生徒と日本の生徒 4 人ずつとで「いっせーの」のゲームをする機会がありました。ポルトガルの生徒は日本の数字、1~10 をすぐに覚えてくれたので、完全に日本語でゲームをしました。大人数でしたのでものすごく時間がかかりました。ポルトガルの人たちがみんな日本語を覚えようと努力してくれたことがすごく嬉しかったです。

私は今回の派遣事業で日本にはないようなたくさんの美しく、私たちにとって非現実的なものを見て視野は行く前に何倍も広がったと思います。そしていい意味で目が肥えたと思います。そのおかげでこれからはより積極的に、貪欲にいろいろなことを学ぼうと思えます。ものすごくいい経験になったしなによりもとてもとても楽しかったです。私のこのようなチャンスを与えてくれた大村市にとっても感謝しています。

